

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	のびっこらんど (児童発達支援)		公表日 令和7年 3月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		机の配置を変えたりしながらのびのびと活動出来るスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		1対1で関わられるような体制作りをしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		子どもが分かり易いように構造化された環境になっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		朝の出勤時、お昼休みや子どもが帰った後の時間などに掃除し、清潔を保っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		個別に使用出来る部屋や場所が認められる環境になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		全職員で話し合いを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	保護者からの要望を確認し、要望を反映させ業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	スタッフ会議だけでなく、気軽に話せる雰囲気があり、そこで出た内容を業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		同じ地区の事業所や法人全体で研修を開催し、知識を深める機会が確保されている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4		今後速やかに作成、公表していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		子どもの状態に応じてアセスメントを実施し、計画書を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		全職員で話し合いをし、検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		職員間で共有し、同じ方向に向かって支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		アセスメントはフォーマルなものだけでなく、インフォーマルなものも活用しながら確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		本人支援、家族支援、地域支援・地域連携のねらい及び内容を踏まえながら支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		一人の考えだけでなく、全職員から意見を聞きながらプログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		同じプログラムにならないよう、職員間で話し合いをし、体を動かす課題から手先を使った課題と楽しく取り組めるよう工夫をしている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせながら児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		子どもの状況に応じて組み合わせながら行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		今日1日の予定を全職員で確認し、連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		毎日、支援が終わった後には打合せを行い、振り返りと気付いた点を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		支援の記録は徹底し、振り返れるようにしている。また、それを基により良い支援を行うための検証をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的にモニタリングを行い、見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		サービス担当者会議や関係機関との会議には子どもの状況を理解した職員が参加し、その後、全職員へ内容を周知し共有している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		保健センター、保健師、医療機関、幼稚園や保育園の先生、行政、相談支援専門員など関係機関と連携し、支援を行う体制が整っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		保健センター、保健師、医療機関、幼稚園や保育園の先生、行政、相談支援専門員など関係機関と連携し、支援を行う体制が整っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		就学時の移行の際には保護者及び関係機関で集まり、会議を開催し、情報を共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	3		スーパーバイズや助言を受ける機会がなかなかないのが現状である。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4		保育所や幼稚園との交流はほとんどなく、他の子どもたちと交流する機会はない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			送迎の際や個別に相談日を設けるなどして毎日保護者と子どもの状況を伝え合っている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4			法人の同じ地区の事業所が開催しているペアプロに案内し、子育てについて話し合いが持てる機会を設けている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			契約時や必要に応じて保護者に説明し、了承を得ている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			作成にあたり、面談だけでなくアンケートを実施し、子どもの要望や保護者の要望を聴く機会を設けている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4			目標及び支援内容を説明し、同意を得ている。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			送迎時など相談があれば応じ、それ以外にも必要に応じて個別面談やアドバイスを行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3	父母の会や保護者会はないが、行事で親子参加行事を企画し、保護者同士で交流出来る機会を設けている。また、行事において利用児だけでなくきょうだいも参加するなどの機会を設けている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談などがあった際には迅速に対応し、体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		広報誌が発行された時には配布し、活動の様子を発信している。また、活動の様子や行事予定についてはその都度文書を作成し、保護者に配布している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		全職員に周知、徹底されている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		写真や絵カードを用いたり、ジェスチャーを用いている。また、学校で行っていることを共有し、分かり易い方法で配慮をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	行事に招待はしていないが、地区の区長さんや地域の神社との交流はあり、地域住民との交流が全くないわけではない。	行事等への招待は出来ていないため、今後検討していく必要がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		マニュアルは掲示し、家族及び職員に周知している。また、感染症対策などの訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCP計画を策定し、毎月必ず地震、火事、津波を想定し、避難訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		契約時には必ず母子手帳の写しをいただく。必要に応じて服薬情報はお薬手帳や薬のなまえや薬のはたらきなどが書かれている説明書の写しをいただき確認している。また、てんかん発作等も事前に保護者に確認し、頻度や服薬情報について確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4		必要に応じて対応しているが、現在食物アレルギーを持っている児童がいない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		作成し、安全管理をし支援を行っている。また、講習会に参加し、AEDの使い方など学んでいる。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		避難訓練の実施や避難経路等家族へ周知し、実際に避難場所になっているところへお迎えをお願いし、連携を図った。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		月1回のスタッフ会議では必ず全職員に周知し、その他でも気付いたときには話し合いを持ち、対応策を検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		メールなどを確認し、オンライン研修への参加を確保している。そこで学んだことを資料をもとに全職員へ周知する機会をスタッフ会議の中で設けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		4		やむを得ず身体拘束を行うかについては組織的には決定しているが、現在身体拘束を行わざるを得ない児童がいない。	